

令和5年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	熊野町立熊野東中学校	校長	草本 泰宏	生徒指導主事	松田憲二郎
取組事例名	『生徒会活動を活かした自律した生徒の育成』				

1 取組の設定	
取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
生徒の自発的、自治的な活動が効果的に展開できるようにする ○集団としての意見をまとめる話し合い活動を充実する ○自分たちできまりをつくって守る活動を充実する	・生徒会の代替わりの際、旧生徒会執行部から新生徒会執行部への“思い”の引継ぎと新役員の“思い”を形にするための機会を通して、生徒全員においてそれぞれの“思い”を表現させる。このことを通して、自分の思いを共有するとともに他の人の“思い”に応える行動を考えられるようになる。



2 展開	
取組の具体的内容	取組の創意工夫
○生徒会活動の充実に向けた取組	生徒にめあてをもたせるために ・リーダー研修の実施 ・現状を踏まえたスローガンの作成 ・スローガン紹介方法の検討
○生徒総会に向けた取組	生徒の意欲を高めるために ・学級や学校の課題を共有する
○生徒会委員会の充実に向けた取組	生徒の頑張りを認め、価値付けるために ・道徳科と関連を図り「よりよい社会の実現」をめざす ・道徳科と関連を図り、日々の委員会活動における「法やきまりを理解」させ、学校の秩序と規律を高められるようにする ・道徳科と関連し、「役割と責任を自覚し集団生活の向上」を図るために、よりよい集団づくりに向けて必要なことを一人一人が考える
○学校行事（体育祭、文化祭）に向けた取組	



3 成果と課題
・「行事や体験活動に満足している」に肯定的に回答した生徒の割合が89.1%（R4：89.3%）である。また、「課題や物事を、粘り強く最後までやりとげようとしている」に肯定的に回答した生徒の割合が第1学年：70.9%、第2学年：77.1%、第3学年90.3%である。行事の実施に向け、課題を解決する取組を通して達成感や前向きな気持ちをもつことができたと考え。今年度の取組はまだ途上であるが、複数年の取組を継続する中で、生徒とともに成果と課題を整理していきたい。